



TopEye

2022

夏号

2つのコンテストを
今年度もヨロシク!



もうすぐ
締切!!

第70回ニッコールフォトコンテスト 第4部

TopEye&kids

[応募締切] 2022年7月5日 必着!

[入賞発表] 『TopEye』2022年冬号誌上

応募票は前号同封のものを使うか、
以下のサイトからダウンロードしてください。

www.nikon-image.com/activity/nikkor/ncpc/



第69回 第4部ニッコール大賞
『Spring Song』
川原 玲音 さん

この秋
スタート

2022年度 TopEye

フォトコンテスト

11月から作品募集開始!

[応募期間] 2022年11月15日~2023年1月14日 必着!

[入賞発表] 『TopEye』2023年春号誌上

応募要項・応募用紙は次号に同封予定です。



2021年度
TopEye賞「秘密」
竹末 小晴 さん

今年も、
ジャンジャン
応募してね!

一緒に成長しあえる仲間は、
部活ならではの!

入賞できたらもちろん素晴らしいけれど、「目標
を持てる」のがコンテストの一番良いところ。そ
して中高写真部の活動は、その目標をみんなで
目指し、作品を見せ合う中で自分の力を見つめて
上達できる、得難い活動です。何度も出さうちに
自分の表現が分かってきて、次へのステップにも
なります。そんな成長を楽しんでください。

TopEyeフォトコンテスト審査員

藤岡 亜弥 氏

背伸びよりも、
今やりたいことを追求しよう

今持っている感覚や感性で被写体と向き合うこ
とは、自分を発見することです。テクニックやテ
ーマ、社会性といった「背伸び」は後からいくら
でもできます。カメラの機能や評価の枠にとらわ
れず、その辺の紙に絵でも描くように、あなたが
今やりたいことを写真で追求してみてください。
それができれば、きっと評価にもつながります。

TopEyeフォトコンテスト審査員

熊切 大輔 氏



「TopEyeフォトコンテスト」受賞作品(一部)の鑑賞や
誌面のダウンロードができます。ぜひご覧ください!

ニコ トップアイ

検索

今号は、お二人の「創作のヒミツ」にせまる!

藤岡亜弥・熊切大輔 誌上トークセッション

実作品で語る 写真家の発想術

プロの写真家は、一体どんなことを考えて写真を撮っているのだろう? 気になるところですね。そこで今回は、「TopEyeフォトコンテスト」審査員の藤岡亜弥さん、熊切大輔さんの実際の作品を見ながら、シャッターを押す前の思考やアイデアについて聞いてみました。




身近なものへの「固定観念」が消える時

「日常の、自分に関わるものしか撮っていない」という藤岡先生。同じものを撮り続けるうち、固定観念を覆す意外な見え方に出会うと言います。約20年撮り続けて昨年発表した「城の物語」、学生時代に子供たちを撮った「my life as a dog」の2つのシリーズから取り上げていただきました。

藤岡亜弥
広島県生まれ、日本大学芸術学部写真学科卒業。主な作品に、「さよならを教えて」「私は眠らない」国内外での個展など多数。2017年に出版した写真集「川はゆく」で伊奈信男賞、林忠彦賞、木村伊兵衛写真賞受賞。



城の物語 「こんな所からも見える!」で20年

このオレンジの屋根の建物は、町のどこからでも見える施設です。いつもそこにあるのですが、季節や時間、見る位置や角度によって、毎回違う見え方をするのが面白いな、と思ったんです。気がつくと20年も撮り続けており、昨年ある写真展にシリーズ作品として出品しました。一期一会の被写体も大切ですが、一つのことを撮り続けることは、ものに潜む多様性を見つけることにもなるし、写真を撮る上でとても大切なことだと思います。

my life as a dog 子どもは「かわいくハッピー」なもの?

学生時代、街を歩いて「子ども」をモチーフに撮りためたシリーズ。最近写真集にしました。この時も固定観念を取り去ろうという狙いがあり、「かわいい・ハッピー」のイメージがある子供が、大人の視野の外でふと見せる、街の片隅に置き去りになったような表情を狙ったものです。「不要なものは取り去る」という写真のセオリーを意識したつもりですが、今見ると時代を感じるものが結構写り込んでいて、それも面白いですね。



ある意味、「定点観測」でしょうか。自分が動くことで様々な姿が見えるのが面白いですね。20年とは行かなくとも、一つのことを2年、3年と追いかけるのは、中高生の皆さんにも取り組みやすいのでは。



一人ぼっちの感情をとらえる画角や角度などの構図感、ぜひ皆さんも参考にして欲しい! (熊切)



熊切大輔
東京都生まれ。東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部に入社。その後フリーランスの写真家として独立。広告や雑誌などで「人」が生み出す瞬間・空間・物を対象に撮影する。最近の写真集は「刹那 東京で」。公益社団法人日本写真家協会理事

【刹那 東京で】
日本写真企画 刊 2,200円(税込)

都市の空気と時代性をどう「切り撮る」か

「街で人が起こす瞬間のドラマ、面白さ」を撮り続ける熊切先生。こだわっているのが「その時にしか撮れない時代性」を写し込むことだそうです。近年の写真集「刹那 東京で」の写真を通して、一枚の写真に「街」の面白さを盛り込む手法を聞くことができました。



被写体選びと人のブレで 都会の移ろう「今」を捉える

渋谷のレコード店で行われていたVR(バーチャル・リアリティ)の体験イベントの様子です。正面の女性が着けているゴーグルや座っている機器は、今では時代遅れかも知れず、まさに「この時期にしか撮れない」被写体。横のスペースには看板があり、係員もいましたが、そのまま撮ると報道写真みたいでつまらないので、通りがかりの人を入れて目隠しを。通行人はシャッター速度を少し遅くして意図的にブラし、存在感を抑えるとともに都市のスピード感を表現しました。



被写体を印象付けながらも、その周りのいろんな「都市のノイズ」も巧みに入れていますよね。熊切さんの興味が伝わってきます。



「主役」をあえて決めず空気感を出す

渋谷のスクランブル交差点を雨の日に撮りました。ビントは中央の女性に合っていますが、手前の雑踏やビニール傘などノイズが多く、視点が定まらない感じ。これこそ都心の空気感ではないかと思います。単写真としては弱いですが、シリーズの中にこうした写真を時々はさむと、句読点やアクセントの役割を果たして流れが作れます。

ムービーみたいですね。自分の「目」がつかみ取った印象を、そのまま写真にしたような。それでいて、細部も面白いものがたくさん入った、魅力的な写真です。(藤岡)



「撮っている自分」も演出の小道具に!

この写真の主役はもちろんマネキンの頭ですが、それに絡めて「人」も入れたかった。そこで歩道もフレームに入れ、自分の存在をアピールするようにカメラを構えました。すると狙い通り、「変な人がいるな」と立ち止まってこちらを見る人が(笑)。彼のメガネの光も「こちらを見ている」表現として活きました。

人物写真でも、モデルと対話していい表情を引き出したりしますよね。撮る側のちょっとした働きかけでいい作品ができることも、多いです。(藤岡)

藤岡先生の写真展を
東京・尾久で開催!
藤岡亜弥 写真展
「アヤ子 江古田気分」

6月16日(木)~7月10日(日)
OPEN:木曜-日曜 13:00~19:00
会場:ギャラリー「OGU MAG」
東京都荒川区東尾久4-24-7
TEL: 03-3893-0868
会場アクセスは下記ホームページをご覧ください。
www.ogumag.com

会場では、藤岡先生の最新写真集も販売します。
「アヤ子 江古田気分」「my life as a dog」2冊組 5,000円(税込)

熊切先生が理事を務める
「日本写真家協会」の公募展
第47回 JPS展

6月21日(火)~6月26日(日)
10:00~18:00
会場:京都市美術館別館 2F
開催情報は「JPS展事務局」まで
TEL 03-3265-7453
www.jps.gr.jp/jpsten/

●「作品講評会」6/25(土) 14:00~15:30 講師:野町和嘉、熊切大輔、柴田明廣
●講演会「知っておきたい写真著作権セミナー」6/25(土)、6/26(日) 予定

元気な先輩に出会いたい!

TopEye

OB/OG訪問!

写真を仕事にした先輩に、「当時」と「今」を聞いてみました!

SENPAI
file.24

フォトグラファー

成瀬 夢さん

帝塚山学院中学校高等学校写真部OG
日本写真映像専門学校を経て
現在 株式会社イノ・メディアプロ勤務
WEBサイト:yume8737.wixsite.com/dream
instagram:pphoto_ddream



「質」
2016年度
第179回 TopEye
フォトサロン佳作

高1で写真を始め、「将来の道に!」と心に決めた成瀬さん。
スタジオスタッフとして技術を学びながら、個展など作品発表を続けています!

コンテスト入賞で熱中スイッチ ON!

中3の時、美術部の写真ワークショップで撮った写真がコンテストに入賞したことから、高1で写真部に入りました。最初は「絵より手間がかからなくていい」と思っていたのですが、撮るうちにコンセプトづくりや構図、仕上げなど、写真制作の奥深さに魅力を感じていきました。

その後もコンテストは大きなモチベーションで、入賞したら必ず授賞式に出席して作品を審査員に見てもらい、落選しても入賞作のアイデアを参考にするようにしました。ただ、「人と同じ撮り方をしない」というこだわりは持ち続けています。



第65回全国展フォトコンテスト
金賞・内閣総理大臣賞作品より

高1の時に「写真を仕事にする」と決心。技術と知識を早く身に付けたいので、大学ではなく専門学校に進みました。人には「生き急いでいる」なんて言われますが(笑)、自分としてはこれでものんびりなだけです。

撮影スタジオ勤務でプロの技術を吸収中

現在、東京の撮影スタジオでスタッフとして働いています。外部のカメラマンや広告会社の仕事をサポートしながら、ライティングをはじめモデルやお客様とのコミュニケーション、撮影の雰囲気づくりなど様々なことを吸収しています。月6日の休みは作品づくりの他、写真展巡りをすることが多いです。

今の職場のスタッフは、3年ほどで「卒業」してカメラマンのアシスタントになるケースが多いのですが、私は写真家としての独立を目指して頑張っています。

時間がたっぷりあるのが学生時代の特権!

当面の目標は、8月の個展を成功させること。できれば写真集も出したいですね。それから、海外で写真を学び、展示もしてみたい。今、こんな風に意欲を持てるのも、高校と写真学校で写真に熱中したことが原点になっています。写真を撮る時間、楽しむ時間がたくさんあるのは、やはり学生時代。たくさん楽しんで、挑戦してくださいね!



2回目の個展「三日月プリマ」では、大きなタペストリーを組み合わせで印象的に展示。

高校卒業以来「年1度の個展」を継続

4歳の頃から打ち込んできたバレエが、大切な撮影テーマの一つです。最初は練習後に撮っていましたが、体調が悪い日に見学がてら練習風景を撮影して手応えを感じ、高校卒業時の個展につながりました。以来、年に1度の個展開催を自分に課しています。今年8月に開く個展は「野球部」がテーマ。様々な学校を訪問して撮影させてもらいました。



バレエはライフワークにしたいモチーフの一つ。



次回の個展は「高校球児のカッコよさを伝える展示にしたい!」そうです。

この夏、個展開催!

成瀬 夢 個展

「カラーストライク」

8月2日(火)~8日(月)



会場: DESIGN FESTA GALLERY EAST 101
東京都渋谷区神宮前3-20-2
WEB: designfestagallery.com

Information

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会



どうきょう総文2022



第46回全国高等学校総合文化祭 写真部門優秀作品展

高総文祭の優秀作品を、今年もニコンプラザで一挙展示。
全国の仲間のアイデアを、吸収に行こう!

東京 8月23日(火)~9月5日(月)
ニコンプラザ東京 THE GALLERY

大阪 9月15日(木)~9月28日(水)
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY

※両館とも 10:30-18:30 日曜休館 最終日は15:00まで

開催期間: 7月31日(日)~8月4日(木)(写真部門行事 8月2日~8月4日)

写真部門会場: 東京都立産業貿易センター台東館(開会式など)、東京都美術館(展示)

東京で開催される今年の高総文祭。撮影コースは、ニコンなどのカメラメーカー各社も協力! 審査委員長は「TopEyeフォトコンテスト」でおなじみの熊切大輔先生です。当日の様子は次号でレポートしますよ!!

tokyo-soubun2022.ed.jp



「TopEye」へのお問い合わせはこちらまで。

ニコントップアイ編集部 (株式会社 ニコン イメージング ジャパン)

E-mail: topeye@nikon.com

TEL: 03-6718-3020

次号は 11月15日発行予定です!

第70回ニッコールフォトコンテスト
「TopEye&Kids!」部門
受賞者&作品発表!!